

5. 委員会活動の充実

1) 委員会の基本的なありかた

○各種委員会は、倫理研究所法人局の方針に則り委員会統括委員長のもと、各単会の委員会活動の活性充実に最優先に、他各委員会との連携を図り、各単会活動の充実と普及活動“仲間づくり”の推進につなげる。

(普及拡大委員会は幹事長が掌握し、委員長が会の運営を推進させる)

◇副幹事長①(統括委員長)のサポートについて

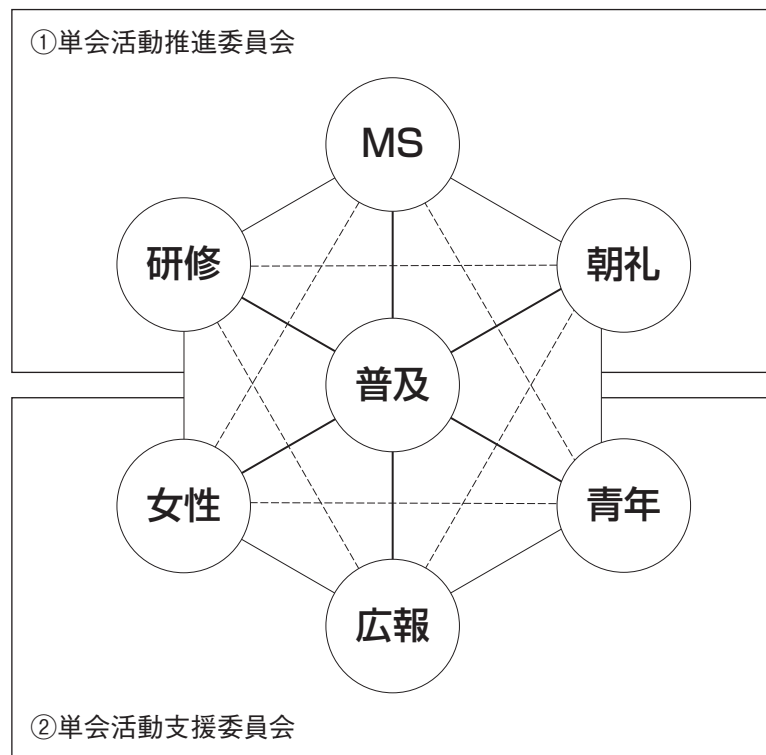
MS・研修・朝礼の各委員会は「単会活動推進委員会」として、各単会の当該活動に関する質の向上と量の拡大を図れるよう指導する。

◇副幹事長②(副統括委員長)のサポートについて

広報・女性・青年の各委員会は「単会活動支援委員会」として、各単会の当該活動に関する効果的な支援活動となるよう指導する。

※正副統括委員長は四半期(Q)ごとの単会活動テーマに基づいて、各委員会の単会における仲間づくり活動が積極的に展開できるよう指示する。

◆各委員会の連携構成イメージ



★上記チャートは、県及び単会における各委員会の直接・間接的な、関係性をイメージしたものです。6委員会は、普及拡大委員会と直接関係して、仲間づくりの情報源となることを意味しています。

2)委員会行事について

- 各委員会は、年度当初に事業計画の骨子、年間スケジュールをまとめ、それぞれの目的・目標の達成にむけて、計画的にこれを遂行する。
- 行事の遂行にあたっては、都度当該委員会でその行事内容を企画立案し、四役会開催の5日前までに行事計画書を提出、承認された行事を展開する。(終了後はただちに行事報告書を企画会に提出する)
- 県委員会は、四半期ごとの開催を原則とし、委員会事業を推進する。
又、地区委員会開催により、地区内連携強化と“三太郎交流”を展開する。

3)委員の立場

- 県委員会の各委員は、所属単会の委員長であり役職者である。
- 県委員は毎月の単会役員会に出席し、県や地区委員会の報告をする。
- 県委員会は年間を通して、単会委員会組織の拡大(仲間づくり)に努める。

4)委員長連絡協議会について

- 正副統括委員長は、県役員会終了後に「委員長連絡協議会」を開催し、県や地区行事の掌握と、単会委員会運営の活性化を推進する。
- 委員長連絡協議会は、各委員会の事業目的をはずすことなく、単会活動の“推進”と“支援”を積極的に強力に推し進める。
※委員長連絡協議会終了後は速やかに議事録を作成し県事務局へ提出する。

5)各委員会の役割について

普及拡大委員会のありかた

- ①県目標必達の為、各地区・各単会それぞれの目標数(達成日)と、毎月の進捗状況を共有し、全地区・全単会の期日達成をめざす。
※地区では単会三役との交流の場を設け、全単会の通年普及を目指す。
- ②普及拡大委員会は原則各単会の現会長で構成し、各委員(単会会長)による“正しい普及”の理解促進を図るとともに、普及意欲高揚の手立てと具体的な戦術の研究・強化を図る。
- ③「普及マニュアル」や「単会活性化戦略」などを、積極的に効果的に活用した研修会を企画し、“楽しい普及”の意識改革を図る。

平成31年度 普及拡大委員会

- ①H30年 9月22日(土)：「普及活動マニュアル研修」
- ②H30年11月29日(木)：「単会活性化戦略活用の実践」
- ③H31年 1月26日(土)：「中間達成に向けて委員会活性化報告」
- ④H31年 4月25日(木)：「年度必達に向けて各単会会長の決意」

【単会活動推進委員会】

この委員会は、単会における主要行事を、その目的をはずすことなくより効果的に推進できるよう、会長の指示を受け積極的に働きかける委員会である。

MS委員会のありかた

- MSは『経営者モーニングセミナー マニュアル』（最新版）に則り、基本に沿って開催することを大前提とし、言葉などの付け加えや一切の省略もせず、“マニュアル通り”の理解と徹底促進を図る。
- MSリハーサルの徹底と役員朝礼チェックリーダーの養成活用を図る。（チェックリーダーは、地区内他単会のMS委員が望ましい）
- 体験報告会員スピーチの定着と充実を図る。（月1回：会員規模で考慮）
- MS出席者数の前年度比を増加させる対策の検討・推進を図る。
- 休眠会員を訪問しMSでの気づきや学びをお伝えしてMSへお誘いする。

研修委員会のありかた

- “研修”に関する諸行事の中心的な役割を担う。
- “経営者の集い”“倫理経営基礎講座”などの開催意義や内容の理解促進を図り、出席対象者の出席率を高めるための施策を研究し推進する。
- 富士研（経営者セミナー）参加者の募集および行事のお世話役となる。
- 休眠会員を訪問し、委員の富士研体験やセミナー体験などをお伝えしながら富士研の各コースのPRや経営者の集いなどにお誘いする。

朝礼委員会のありかた

- 「職場の教養」を活用した“活力朝礼”の意義を充分理解し、朝礼実施企業の増大を図るとともに“会員サービス”の徹底を図る。
- 「朝礼基本マスター研修」で朝礼インストラクターの養成と活用を図る。
- 「朝礼コンテスト」は中心的役割を担い参加企業と見学者の増大を図る。
- 「活力朝礼」モデル企業の育成と「終礼」実施の促進を図る。
- 休眠会員を訪問し企業朝礼の実態を把握するとともに、朝礼実施企業の成果情報を提供しながら「活力朝礼」導入の推進を図る。（同時に、朝礼コンテストの地区大会や決勝大会の見学にお誘いする）



- 倫理を学んで元気になってほしいお友達企業を紹介してもらおう!
- 新会員情報や、どんな仲間がMS等で学んでいるかも伝えましょう。

【単会活動支援委員会】

この委員会は、単会のすべての事業をより円滑に推進できるよう、それぞれの立場で積極的に支援する委員会である。

広報委員会のありかた

- 広報委員会は、県行事及び単会行事の広報を支援する
- 県広報紙“さんSUN”及び“りんゆう”の取材対象者をノミネートし、統括委員長のもとに蓄積する。(ノミネートには単会会長の了承を得る)
- 各事業・行事における計画的な取材・情報の蓄積を図る。(写真撮影など)
- 単会行事での録音・録画・撮影などの禁止事項を周知徹底させる。
- 研究所発行の「倫研新報」への情報提供と県HPの活用を図る。
- 各単会行事における成果情報を常に蓄積して、他委員会が企業訪問する際の案内資料として提供するとともにその訪問活動にも同行する。

女性委員会のありかた

- 女性会員が“らしさ”を発揮し“輝き”のある仲間づくりを楽しむ委員会です。
- 倫理法人会における“女性らしさ”研究セミナーの企画・実施。
- 休眠会員を訪問し経営者夫人や女性社員向けのセミナーにお誘いする。
- 体調不良やご家族の都合等でMSIに出席できなくなった女性経営者を縁が切れないようランチ会やナイトセミナーを企画しお誘いする。

青年委員会のありかた

- 各単会のムードメーカーとして、若いパワーを発揮させた青年層の取り込みと、倫理を学ぶ若い仲間づくりを楽しむ委員会です。
- 若手独身社員を対象にした「セミナー」を年1回開催する。
- 休眠会員を訪問し後継者塾のPRとともに後継予定者対象のセミナーや若手社員対象のセミナーをナイトセミナーとして企画しお誘いする。

全委員会の重要な役割は“仲間づくり”です。

ランチ会やナイトセミナーには、自単会や地区内のレクチャーを活用し、身近な倫友が「倫理と出会ってどう変わったか」を発表してもらうことで、未入会者に倫理の良さの一端をお伝えすることができます。

遠方から講師をお招きするよりも、気軽に手軽に企画運営できます。

- ※カラオケ・ゴルフ等の同好会にもこの手法を活用してください。
- ※委員会の“三太郎交流”企画運営は必ず単会の役員会で承認を得ること。
- ※地区内他単会からレクチャーをお願いする時は地区長に相談すること。



各委員会の
“三太郎交流”を
積極的に展開する。

P86「通年普及計画表」参照

全委員会に共通した重要な役割は “仲間づくり”です。

○委員会ごとに“仲間づくり”を目的とした「お楽しみ会」等を企画し、休眠会員や委員の友人知人（未入会者）をお誘いして、倫理法人会の楽しさや経営者の“学び”になりそうだと気づけるよう、積極果敢に行事を展開してください（この時、入会促進はしない）。重要なことは、単会主催の「経営者の集い」「倫理経営講演会」や、「オモシロ懇話会」等次回のお誘いに“喜んで参加してもらおう”ことです。

※モーニングセミナーにお誘いしても結構ですが、一般に早朝はハードルが高いものだと心得るべきです。相手の心境に合わせて徐々にお誘いすることが肝要です。

※「お楽しみ会」は、委員会の人数の問題等で、複数委員会の合同開催や、地区内の同委員会の合同開催も可能です。（必ず地区長に相談すること）

★P65「すべての会合は『三太郎交流』で」参照

委員会の会合について

○県委員会は、四半期ごとの年4回開催を原則として年度当初に計画した事業を遂行するため、地区委員を選出し地区委員会を活性化させる。ただし、富士研セミナーや朝礼コンテストなど県行事開催にむけた会合は随時開催できるものとする。

○地区委員会は、必要に応じて随時開催し地区内の連携強化を図る。また、開催にあたっては地区長のオブザーバー出席が望ましい。

単会における委員会の“仲間づくり”について

全単会“通年普及”を実現させるためには、委員会活動を活性化させることが絶対条件と言っても過言ではありません。単会の委員会は企業で言えば“営業部”であり、まさに単会の“戦略チャネル”となるはず。年度頭初めに委員会を結成し、オリエンテーションなどを開催してそれぞれの目的や役割を周知させることが肝要です。

※オリエンテーション開催には、講師の選定を含め、地区長に相談してください。

「“通年普及”実現のために」

〈例〉各委員会がそれぞれ3ヶ月ごとに1社普及すると計画した場合

委員会	通年普及計画表												小計
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
普及拡大	1			1			1			1			4
MS		1			1			1			1		4
研修			1			1			1			1	4
朝礼	1			1			1			1			4
広報		1			1			1			1		4
女性			1			1			1			1	4
青年	1			1			1			1			4
合計	3	2	2	3	2	2	3	2	2	3	2	2	28

※普及拡大委員会は三役を中心とします。

単会“委員会”活動の充実

単会は“地域創生”のタグボートだ！

地元地域の中小企業や経営者の方々と共に、元気な企業を目指すことが私たち役職者の使命です。

単会を“MS普及号”というタグボートに例えると、

その時々の単会の事業目的（講演会やイベントの成功）が旗印になります。

そのゴールに向かって個々の委員会が“底引き網”のように、

それぞれの委員会の特性を活かして、

仲間づくりの情報集め行事を展開します。

この網を効率よく動かすためには、三役が中心になり、

元気よく前進させなければなりません。

勿論、ボートの操舵は会長の役割。

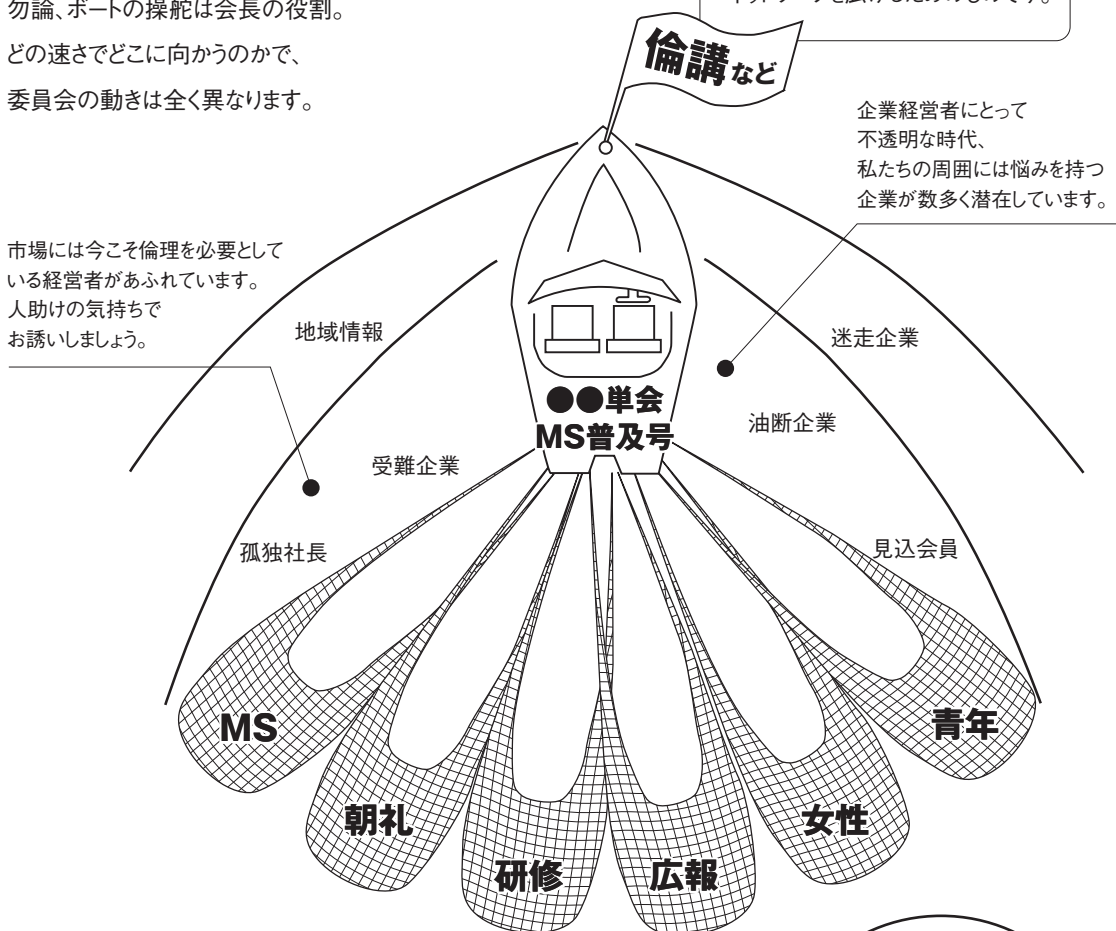
どの速さでどこに向かうのかで、

委員会の動きは全く異なります。

市場には今こそ倫理を必要としている経営者があふれています。人助けの気持ちでお誘いしましょう。

「倫理経営講演会」や「経営者の集い」、「ナイトセミナー」などは、すべて“心の経営”を目指す人々のネットワークを広げるためのものです。

企業経営者にとって不透明な時代、私たちの周囲には悩みを持つ企業が数多く潜在しています。



より多くの人を惹きつける

魅力的な「磁石」づくりを考えよう

マグネット手法で仲間づくりを推進しよう！

人は「似た者同士」が集まる習性を持っています。

気さくな人には明るい人が、暗い人には理屈っぽい人が集まり、

ゴルフ好き、カラオケ好きな人同士が集まっています。

同好会を結成したり、気軽なイベントを切り口にして仲間づくりを推めましょう。

(三太郎交流参照P65)

★少人数の委員会では、複数の委員会や地区内での合同企画による同好会活動も効果的でしょう。